



AUE News



2013年4月1日

第 59 号

編集・発行

愛知教育大学広報チーム

TEL 0566-26-2738

FAX 0566-26-2500

目 次

● 行事予定(4月 1-15 日)

● トピックス

- ・サンパウロ大学 Sedi Hirano 名誉教授夫妻が本学訪問
- ・学生寮改修完成式
- ・第一福利施設リニューアルオープン
- ・第 6 回愛知教員養成コンソーシアム連絡協議会
- ・卒業修了式
- ・大学院修了証書授与式
- ・松田学長ら和歌山大学訪問
- ・退職者永年勤続表彰式
- ・時間外労働・休日労働に関する協定を締結

・ 事務職員等職務貢献表彰

● お知らせ・報告・投稿

- ・第 54 回全国国立教育系大学バドミントン選手権大会
- ・第 3 回教科開発学研究会
- ・第 49 回四学芸大学庭球大会
- ・ダンス部が第 3 回東海学生ダンス発表会出場
- ・カンボジア・フォローアップ訪問
- ・社会科教育発表会
- ・ロンドン五輪出場・大学院修了の中野弘幸さん
- ・2012 年度花プロジェクト活動報告
- ・催しもの案内

行事予定(4/1-15)

- 2 日(火) 役員部局長会議 (13:00～ 学長室)
- 4 日(木) 入学式 (10:30～ 講堂)
大学院入学式 (18:30～ 第五会議室)
- 9 日(火) 役員会 (13:00～ 学長室)
- 10 日(水) 代議員会 (13:30～ 第五会議室)
教育研究評議会 (代議員会終了後、第五会議室)

トピックス

サンパウロ大学 Sedi Hirano 名誉教授夫妻が本学訪問(3/21)

3 月 18 日(月)、本学が今年 1 月に学術交流協定を締結したブラジル・サンパウロ州立サンパウロ大学の Sedi Hirano 名誉教授が、Toshimi Kojima Hirano 夫人とともに本学を訪問しました。

本学に到着した夫妻は、まず本学の紹介 DVD を鑑賞。通訳を担当した二井紀美子准教授(外国語教育講座)に、本学についてさまざまな質問をしました。

続いて行われた懇談会には、本学から松田正久学長、折出健二理事、宮川秀俊国際交流センター長、二井准教授、稲吉隆教育創造開発機構運営課長が出席。両大学間の交流の方向性について、学生交流の実施計画の諸項目に対する検討も含め、熱のこもった意見交換が行われました。

Hirano 教授によると、サンパウロ大学は毎年約 900 人の学生を海外協定校に派遣しており、



日本の協定校の一つとして本学への学生派遣も早急に実現させたいとのことでした。本学にもブラジルやポルトガル語に関心を持つ学生が多く、近い将来、活発な交流活動が期待されます。（教育創造開発機構運営課 国際交流センター 宮内春菜）

学生寮改修完成式(3/19)

学生寮 A、D 棟の改修が完了し、3 月 19 日（火）午後 5 時から完成式が行われました。

本学の学生寮は、キャンパスが公共交通機関のアクセスに必ずしも恵まれていないこともあって入寮希望者が多く、かつ留学生の増加に伴って留学生宿泊施設が不足していることから、2011 年度に新たに 1 棟（F 棟）を新設し、現在 6 棟。既存学生寮の建物は 1969～70 年に建設されて以来、大型改修が実施されておらず、老朽化が著しく、学生の生活環境が低下して改修が必要となっていました。改修では、プライバシーの確保、一般学生と留学生の混住型寄宿舎とするため寮室にユニットバス・トイレを設けて個室化（ワンルームマンション型）し、良好な住環境の下、勉学にいそしむ環境を整備しました。

改修により、新設の F 棟と同等仕様になるように、南側にバルコニーを増設、出入りが容易にできるように従来の窓を吐き出し窓にし、室内にユニットバス・トイレなどを設置。外装も F 棟と遜色のないよう白を基調に、清潔感を強調した色彩に統一。ライフサイクルコストの低減を課題にして、二酸化炭素排出量削減などを実現するため、外断熱、複層ガラスなどを採用。LED 照明やヒートポンプ式給湯器の導入で省エネにも配慮されています。



完成式では、松田正久学長、都築繁幸学生担当理事、寮長・副寮長の学生が、改修を祝ってテープカット。松田学長は「きれいな学生寮になって、より一層勉学に励んで、全学生の模範となってください。今後も学習環境の整備を進めていきたい」とあいさつしました。

式の前には、改修後の寮室が寮生や教職員にお披露目され、学生たちは「快適な寮室になって、よかった。大事に使っていきたい」などと満足そうでした。

第一福利施設がリニューアルオープン(3/19)

第一福利施設の耐震補強工事が終了し、3 月 19 日（火）午後 5 時 40 分からリニューアルオープンの式典が行われました。



同施設は 1970 年の竣工以来、多くの本学生協組合員に利用されてきましたが、不足していた耐震性を確保するための昨年 9 月から約半年間かけて改修工事を実施。コンセプトを「自然との調和」「省エネルギー」「交流の拠点」として、新たに耐震壁を設置し、既存の建物の一部に耐震スリットを設けることで耐震性を高め、さらにエントランス周りの混雑解消のために新たにガラス壁面を設けてエントランスホールを整備、出入り口前面に大きな庇に覆われたポーチを設けて、屋外の飲食やイベントスペースとするなど整備されました。また、店舗 1 階にはベーカリーを新設して焼き立てのパンを提供し、屋外だけだった ATM（現金自動預け払い機）を店内に





も設置、分散していた書籍・パソコン・旅行などを扱うサービスカウンターを1カ所に集約、2階食堂

「HANDS」は席数を増加し天窓を設けるなどして、便利で明るく分かりやすい店舗にリフレッシュしました。

式典では、松田正久学長、都築繁幸学生担当理事、生協学生委員らがテープカットを行い、リニューアルオープンを祝いました。松田学長は「大変広く、素晴らしくなった。後は中身をいかに充実させ、学生の期待に応えるかが大切」と今後の展開に期待。その後、施設内が披

露され、学生や教職員が新しくなった施設を見学しました。

第6回愛知教員養成コンソーシアム(3/21)

愛知県内の教員養成の大学と学部を持つ33大学で構成する愛知教員養成コンソーシアムの第6回連絡協議会が3月21日(木)午後、本学第五会議室で開催され、本学を含む計30大学の教員、事務職員ら約70人が出席しました。

連絡協議会会長でもある本学の松田正久学長が「年度末のお忙しい中、多数お集まりいただき、ありがとうございます。国立大学改革ではミッションの再定義があり、教員養成の質保証、高度化の流れがあります。今回は文部科学省、愛知県、名古屋市の3人にご講演をお願いし、本学理事からも新たな取り組みについて報告させていただきます」とあいさつしました。



3人の講師は文部科学省高等教育局大学振興課教員養成企画室の鍋島豊室長、愛知県教育委員会教職員課の玉手譲二主査、名古屋市教育委員会教職員課の牛田宏昭管理主事。鍋島氏は「教員養成政策の最近の動向について」をテーマに基調講演。大学、教職大学院における教員養成の現状、教育委員会や大学との連携について資料を基に解説。教師インターンシップの導入などが検討されている自民党の教育再生実行本部の中間取りまとめを紹介。「家庭とともに将来を担う子どもの一番身近にいる学校教職員が重要。質の高い教

員の養成が教員養成大学、学部の使命だが、それを果たすためにも大学と教育委員会や学校現場との連携・協働の推進が必要です」などと述べました。

また、玉手主査、牛田管理主事はそれぞれ「教員採用について」をテーマに、本年度の採用状況の報告、来年度の採用見通しなどを説明。来年度もほぼ本年度並みの採用数が維持できそうとの発言もありました。最後に本学の岩崎公弥教育担当理事から「愛知県内教員養成高度化支援システムの構築」について中間報告がありました。



参加者はメモをとりながら2時間余の講演を熱心に聴講。それぞれの講師へは「教師インターンシップ導入には手続きが必要では」「教育委員会は大学毎の合格者数を教えてくれるのか」「説明会には学生数が少なくても教委から派遣してもらえるか」などの質問があり、「免許法施行規則を変えていくことになると思う」(鍋島氏)「申請があれば文書で合格者数を答える」(牛島氏)「説明会はできる限り期待に応えたい」(玉手氏)などと答えていました。

(法人企画部長 中原道文)

卒業修了式(3/22)

2012年度卒業・修了式が3月22日(金)午前10時30分から、講堂で執り行われました。

今年度、卒業・修了したのは、教育学部教員養成課程673人、現代学芸課程233人、学芸4課

程 2 人、大学院教育学研究科 128 人、同教育実践研究科 38 人、特別支援教育特別専攻科 22 人の計 1096 人。

式では、学位記と修了証書の授与が行われ、各課程の卒業・修了生代表が壇上に歩み出て、松田正久学長から学位記と修了証書を受け取りました。また、今年度は 2012 ロンドン五輪に陸上 1600 ㍓リレーのアンカーとして出場した大学院生の中野弘幸さんも、本学の



名誉を著しく高めたとして、特別に壇上で学位記が手渡されました。

学長告辞で松田学長は、4 年前の入学時に考えてほしいこととして話した 4 点、国立大学で学ぶことの意義、大学運営への学生参画、教養教育について、現代の諸問題と大学の機能を挙げ、「4 年間の学びで、どの程度その目的が達成されたのか、真摯に振り返ってほしい」と述べ、「卒業生・修了生の皆さんお一人お一人が健康で充実した人生を歩まれるよう心から祈念します」などとエールを送りました。

これを受けて、卒業生・修了生の代表による答辞が行われました。初等教育教員養成課程の伊



藤侑里さんが「この 4 年間で得た知識や経験、そして仲間たちとの思いでを糧に、一步一步前に進んでいけるように努力していきたいと思います」などと決意を語りました。

この後、来賓の紹介、管弦楽団の演奏、「蛍の光」斉唱が行われ、式は終了。講堂前では卒業・修了生たちをクラブ・サークルの後輩たちが待ち受け、胴上げをしたり、記念撮影をするなどして、先輩たちの門出をにぎやかに祝いました。



大学院修了証書授与式(3/22)

2012 年度大学院修了証書授与式が 3 月 22 日(金)午後 6 時 30 分から第五会議室で行われました。式には大学院の昼夜開講コース・教職大学院を修了し、昼間の修了式に出席できなかった現職の教員 15 人が参列。一人ひとりの名前が呼ばれ、松田正久学長から学位記が手渡されました。



学長告示で松田学長は「今日の修了式を迎えられたこと、誠にありがとうございます。小学校や中学校にお勤めになりながら、本学大学院でそれぞれの学問分野や教育実践にかかわる研究をされ、晴れて修士号や専門職の学位を取得された皆さんのご努力に対し、衷心より敬意を表します」と労をねぎらい、「皆さんは学校現場で先導的な役割を担っていかれることになり、今後の



活躍に大きな期待を寄せております」と激励の言葉を贈りました。

修了生の答辞として、国語教育専攻の本田敏倫さんは「これまで経験を頼りに実践をしてきましたが、理論を学ぶことで裏付けのある実践につなげることができると確信することができました。ここで学んだことを教育現場に還元してまいりたいと思います」、教職実践専攻の

三浦義広さんは「『理論と実践の融合』『現代の教育課程に対応できる実践的な力量』の形成を掲げる本学教職大学院において、私たちは学校現場にかかわる実践的な力量や資質を体得するこ

とことができました。4 月からは現場に戻り、現場のよきミドルリーダーとして学校現場の戦力となるように責任を果たしていきます」などと、それぞれの決意を述べました。

松田学長ら和歌山大学を訪問(3/25)

松田正久学長、折出健二総務担当理事・副学長、濱田泰栄総務課長の 3 人が 3 月 25 日（月）、和歌山大学を訪問して、山本健慈学長、池際博行教育学生支援担当理事・副学長、多昭彦企画調整役と大学改革等をめぐって意見交換を行いました。その後、中央図書館および宇宙教育研究所保有の電波望遠鏡施設等を見学しました。

意見交換では、まず山本学長から、同大学の「2011-2013 行動宣言」（七つの達成課題）を中心に大学経営について具体的な説明をしていただき、これを受けて、教養教育およびそのカリキュラムの編成の在り方、財政の実態と経営効率化、教職員が課題を共有するための方策などについて、同学長と松田学長とで意見交換をしました。学生支援や教養科目の設定など関連の話題について、池際、折出両理事も議論に加わりました。



図書館では同館 3 階に拠点を持つ紀州経済史文化史研究所（所長：藤本清二郎教育学部教授）に案内していただき、貴重な資料の収集・展示について説明を受けた後、渡部幹雄館長（特任教授）の案内で、クロスカル図書館（多面的文化の交差・交流の意味）としての同館について、ラーニングコモンズ、喫茶室、図書館を使いやすくする工夫などさまざまな改革の説明を受けました。同館には専属のライブラリアンの役を果たす岡田大輔特任助教が配属され、学生の学びの援助役を務めています。広い空間に、学生の自習スペースを確保し利用しやすく、交流しやすい図書館づくりに示唆を得ました。

（総務担当理事 折出健二）

退職者永年勤続表彰式(3/26)

2012 年度の退職者永年勤続表彰式が 3 月 26 日（火）午前 10 時から第五会議室で行われました。対象者は、梅澤由紀子特別教授（幼児教育）、神谷孝男特別教授（教職実践）、近藤潤三特別教授（地域社会システム）、阿部和俊教授（地域社会システム）、寺中久男特別教授（理科教育）、芹澤俊介特別教授（理科教育）、市橋正一特別教授（理科教育）、藤江充特別教授（美術教育）、久永直見特別教授（保健環境センター）の計 9 人。



ただきたい」とエールを贈りました。

引き続き、被表彰者を代表して、神谷特別教授が謝辞とともに、「本学で勤務したことの誇りを持って、今後はボランティア活動をはじめとして、少しでも人のため、地域のために活動したい」と今後の抱負などを述べました。

（人事労務課 福祉担当係長 原田一三）

時間外労働・休日労働に関する協定を締結

3月26日（火）に学長室で、過半数代表者（大学事業所）の藤井啓之教授（学校教育）と松田正久学長との間で、時間外労働・休日労働に関する協定が締結され、4月1日付で発効となりました。

この協定は、労働基準法36条に規定されていることから、通称36協定（サブロク協定）と呼ばれ、使用者と労働者の過半数を代表する者が書面で締結し、労働基準監督署に届け出ることによって労働時間を延長したり、休日に労働をすることができるようになります。協定期間は1年間で、互いに「時間外労働及び休日労働に関する協定書」および「時間外労働・休日労働に関する協定届」に署名捺印をし、握手を交わしました。

長時間労働を原因として、メンタルな不調をはじめ働く人の健康を損なうことのないよう労使双方の責務のもと、労働時間の適正な管理が望まれます。

（人事労務課）



事務職員等職務貢献表彰(3/29)

職務上の功績が特に顕著な職員を対象にした「事務職員等職務貢献表彰」が3月29日（金）、学長室で行われました。

この表彰は、本学役職員表彰規程に基づき初めて実施されたもので、事務能力の増進を図るための改善など本学の運営に対して貢献した事務職員・技術職員などに贈られるもの。対象者は役員、事務局長、部長による推薦で、役員会での協議を経て決定されます。

今回、表彰されたのは、総務課文書法規係長の古川ゆう子さんと、施設課全職員の1個人、1グループの計2件。古川さんは、規定管理システムの抜本的な見直しにかかわる業務改善と郵便システムの変更による経費削減に貢献し、総務課だけでなく他課へ及ぶ業務改善に大きく寄与したことなどに対して。また、施設課は職員をあげて、省エネ対策を全学的に普及し、個々人の省エネに対する啓もう活動に端緒をつけたこと、花壇の整備で大学のイメージアップを図るとともに、学生・教職員に癒しを与えたことが、それぞれ高く評価されました。

表彰式では、松田正久学長が、古川さん、施設課代表の谷川正憲さんに、表彰状と副賞（図書券）を手渡し「大学の業務に大いに貢献されました。これからも業務改善に努めていただきたい。また、今後は他課からも対象の事案が寄せられることを期待しています」などと述べました。古川さんは「これからも頑張ります」、谷川さんは「チームで仕事をすることが多いので、表彰していただきチームの励みになります」とそれぞれ笑顔で抱負を語りました。



お知らせ・報告・投稿

第54回全国国立教育系大学バドミントン選手権大会(報告)

3月4日（月）から9日（土）までの6日間、豊橋市の豊橋市総合体育館で、全国国立教育系大学バドミントン選手権大会が開催されました。

今回で54回目となる大会には、宮城教育大、東京学芸大、上越教育大、滋賀大教育学部、奈良教育大、京都教育大、大阪教育大、和歌山大、兵庫教育大、鳴門教育大、福岡教育と本学の全国教育



系12大学から約130人の学生選手が参加しました。

初日の開会式では当番校である本学大会会長の松田正久学長の代理として、学生支援課亀山が優勝杯返還とあいさつを行いました。その後、団体戦と個人戦の競技が開始され、6日間の熱戦が繰り広げられました。



体育館内は、競技の都合上エアコンを稼働させていないため、観戦をするには肌寒いようでしたが、各チームとも熱の入った応援合戦を繰り広げていました。

熱戦の結果、団体で、男子は東京学芸大、女子は大阪教育大学が優勝。本学は、残念ながら男子は第4位、女子は第9位の結果でした。しかし、個人男子ジュニアシングルの部と男子ダブルスBの部において優勝し、また、女子ダブルスBの部においては第3位の成績を

収めるなど健闘しました。

最終日の閉会式では、本学学生支援課吉田宏副課長が学長代理として表彰とあいさつをしました。長い熱戦の間、学生選手たちは日ごろの練習成果を確認するとともに、国立大学で学ぶ教育系の学生として十分に交歓し、将来の教師としてのネットワークを視野に友情を深め合っていました。

(学生支援課 課外教育担当係長 亀山重人)

第3回教科開発学研究会(報告)

静岡大学で3月10日(日)、「第3回 教科開発学研究会 教科開発学を創る」が開催されました。この研究会は、本学と静岡大学が共同で開設した後期3年博士課程である大学院教育学研究科共同教科開発学専攻において研究を進めている教科開発学に関する研究成果を発表するためのものです。過去2回は本学で開催しましたが、今回は静岡大学での開催となりました。

研究発表会では、午前は二つの分科会に分かれて9件の研究発表が行われ、熱心な発表と活発な議論が展開されました。午後は、梅澤収静岡大学教育学部長(研究科長)のあいさつの後に、シンポジウムとして尾島卓氏(岡山大学教育学研究科)「岡山大学教育学部における『教科構成学』開発事業の現状と課題」、笠潤平氏(香川大学教育学部)「物理の一分野としての物理教育研究の発展のためのアメリカにおける意識的努力」、遠藤貴広氏(福井大学教育地域科学部)

「教科の専門性の問い直し～福井大学の取り組みを事例に～」の発表と議論を行い、教科開発学において目指すべき研究と教育について活発な意見交換を行いました。

関連する取り組みとして、3月30日(土)には、名古屋国際センターにおいて日本教科学学会(準備大会)が開催されました。

(理事・副学長 都築繁幸)

第49回四学芸大学庭球大会(報告)

3月13日(水)から4日間、本学のテニスコート(クレークコート)と東海市の加木屋運動公園加木屋テニスコートで、「四学芸大学庭球大会」が開催されました。



今回で49回目となる大会には、東京学芸、京都教育、大阪教育と本学の全国4教育大学から約60人の選手が参加しました。

初日は本学のテニスコートで開会式が行われ、大会会長である松田正久学長が優勝杯返還などのために出席し、参加学生たちに「テニスは、風の向きを考える等、洞察力が大事で難しいスポーツでもあります。皆さんは、大

会を楽しむことが大切です。とにかく楽しんでください」とあいさつ。式後に、肉離れのケガで杖をつき応援として参加した東京学芸大学男子学生を見つけ、ケガの心配や励ましの言葉をかけていました。

この日は、エキシビションを行い、大学対抗戦の前の前哨戦的なゲームのため、各選手は

白球を追い、応援を繰り広げていました。3日間の熱戦の結果、男女共に大阪教育大学が優勝しました。本学は残念ながら男女共に第3位の成績でした。本学の学生は、「大阪教育だけは、断トツでテニスのレベルが違うため、半端な練習では、なかなか勝てません。もっと頑張ります」と話し、大会の準備で少し疲れ気味でしたが、意気込みを感じました。

閉会式は、全試合終了後の翌17日（日）、知多郡東浦町にある愛知健康プラザ宿泊施設にて行われ、4大学で互いの健闘をたたえ、教育系大学としての親交を深めていました。

（学生支援課 課外教育担当係長 亀山重人）



ダンス部が第3回東海学生ダンス発表会出場(報告)

私たち本学ダンス部は3月9日（土）に岡崎女子短期大学で開催された「第3回東海学生ダンス発表会」に出演しました。この発表会は東海学生舞踊連盟が主催するダンス公演で、東海地区6大学の学生が約1年間かけて企画・運営して実施、今年で3回目を迎えました。今回は「Link on Link 笑顔の輪」をテーマに各大学の作品や複数の大学での合同作品など10数作品を披露しました。本学ダンス部は、「The world of a rhythm!」と「鼓動の旋律」という2作品を踊りました。

発表会に至るまでの約1年間、各大学の代表である学連委員が中心となって会議を重ねて準備をしてきました。本番当日は立ち見が



出るほどのお客様に来ていただき、発表会を無事に終えることができました。また合同練習を繰り返し行っていく中で他大学との交流も深まり、一つの舞台をつくり上げる仲間としてお互いの作品にアドバイス



をしたり、応援し合ったりできるようになりました。今後もこの会が続くよう、他大学とのよりよい関係を築き、この発表会を継続させていきたいと思っています。

（ダンス部主将 初等教育科学選修4年 渡部紗千）

カンボジア・フォローアップ訪問(報告)

毎年6月～7月に本学で実施しているJICA（国際協力機構）集団研修「産業技術教育」コースのフォローアップのため、昨年度カンボジアから来日した4人の研修員の所属する2大学を松田正久学長、清水秀己創造科学系学系長、宮川秀俊国際交流センター長の3人が、3月14日（木）～18日（月）に訪問しました。

一つは国立カンボジア職業訓練大学（NPIC、労働省）で、もう一つは国立カンボジア工業大学（ITC、教育省）です。前者では、Bun Phearin 学長をはじめ、機械科、電気科、品質管理科の科長と研修員の Mey Kimsan 氏と、後者では、Chunhieng Thavarith 副学長と電気科、コンピュータ科の科長と研修員の Nuth Sothan と面談しました。両大学とも面談の後に施設見学を行いました。これまでは、JICA 研修員を通してのカンボジアの産業技術教育の情報しかなかったのですが、今回の訪問は教育・研究の実状をよく知る機会となり、これから





の協力・支援の糸口を把握でき、有意義な訪問となりました。

また、今回の訪問では、以前 JICA 専門員としてカンボジアに滞在、現在は同国の国立教育研究所（NIE、教育省）のサイエンスアドバイザーの金森正臣名誉教授も同行して、旧交を温めました。この NIE には、本学で修士課程を修了した留学生が理科系教員として多く勤務しています。この修了生が 7 人

ほど参加し、副校長を交えての懇談会を行いました。NIE は、カンボジア発の教育大学をめざして準備中ということです。校長も本学の修了生で、懇談会は所用で欠席でしたが、出発日の朝 7 時に宿泊先のホテルで今後の本学との交流について懇談しました。



（国際交流センター長 宮川秀俊）

社会科教育発表会（報告）

私たち社会科の 3 年生は、この 1 年間、社会科教育 CⅡ、CⅢの授業で、グループごとにさまざまな企業や小学校と連携させていただき、社会科の教材研究に努めてきました。3 月 15 日（金）の報告会では、連携先の方々にもお越しいたき、1 年間のグループ活動の成果を報告しました。12 グループの活動報告のうち、二つのグループの活動を簡単に紹介します。



一つ目のグループは、中日新聞社 NIE（Newspaper in Education）と連携し、「原子力発電のこれからを考えよう」というテーマで、新聞を使った教材を作りました。さらに、その開発した教材を実際の教育現場で実践し、現場の教師の方々からも助言をいただきました。

もう一つのグループは、「国際理解」をテーマに、東郷町国際交流協会の方々と連携し、「学びの広場に集ま

ろう！子どもたちの笑顔から世界がつながる」をテーマとして、小学生 40 人を対象とした国際理解教育事業を計画・実施しました。また、オープンキャンパスで、ユニセフについて模擬授業を行いました。

私たちにとって、社会の方々との交流は、大変貴重な経験となりました。学校では学べないこともたくさんあることが分かり、将来教師になった時には今回学んだことをぜひ生かしていきたいと思います。（文中の学年は 2012 年度で表記）



（中等社会専攻 4 年 堀田千尋）

ロンドン五輪出場・大学院修了の中野弘幸さん

卒業式が行われた 3 月 22 日（金）午前、先輩の卒業を祝う陸上部員による送別会が本学グラウンドで、行われました。午前 8 時半、陸上競技のトラックに集まった在学生



約 70 人は中野弘幸さんや卒業生、修了生 21 人を迎えて、「ご卒業、おめでとうございます」と声をそろえて歓迎。女性の卒業生は女子部員一人ひとりに手紙を手渡し、短距離、フィールド、中長距離の競技別に別れて部員と卒業生が記念写真撮影。短距離の男子部員からは中野さんにはロボット掃除機がプレゼントされました。



後輩の大学院 1 年の水谷彰吾さんは「中野先輩は陸上のことを考え、常に違う発想で自分を

見つけ出し、努力の方向性を示してくれた。勉強になりました」。2 年の木引悠起子さんは「私がけがをした時にどこが悪いかを指摘、（フォームを）改善してくれた。中野先輩は偉大です。教員も大変だと思いますが、陸上競技を続けてほしい」と話しました。

中野さんは式の後、講堂前でテレビや新聞の記者に囲まれ「6 年はあっという間。8 月の世界陸上を目標にしたい。小学校の子どもたちに背中では語る教師になりたい」と抱負を語りました。

中野さんは4月から安城市内の小学校教員として勤務します。



2012 年度花プロジェクト活動報告(報告)

現在、大学構内に植栽されているのは花約 3,300 株と菜花畑の約 5,000 株です。本年度は昨年度から引き続き花の植栽と花壇整備を行いました。



春から夏はインパチェンス、ニチニチソウ、マリーゴールド、秋から冬はビオラ、パンジー、菜花、芝桜等を植栽しました。花を新たに植えた場所は第二福利施設、障害児教育棟、美術第一実習棟の3カ所です。

特に第二福利施設の花壇は南側の空いているスペースを有効活用し、実習園職員の指導の下、作業をしました。作成手順は、まずトラクターで耕作を行い、石の除去、土壌改良、畝の作成、菜花の種まきです。10 月に蒔いた種は 2 月下旬に開花を迎え、3 月中旬には桜より一足早く満開となって黄

色い花が一面に広がりました。入学手続きに来ていた親子が「わあ、きれいだね～」と、足を止めて花畑を見つめていました。今後は 5 月下旬に種の収穫を予定しています。

美術第一実習棟前の築山にはピンク色と白色の2種、計 200 本の芝桜を植栽しました。美術・技術・家政棟の上階からだとよりきれいに見えますと思います。芝桜は4月から5月にかけて見ごろを迎えますのでぜひ高い位置から見渡してください。

※写真上：第二福利施設前の菜の花、下：美術第一実習棟の築山の芝桜



(財務部施設課 技術専門グループ 倉橋幸佑)

催しもの案内

◆「学生能への招待」展

4月4日(木)～19日(金) 入場無料

附属図書館2階 アイ♥スペース

主催：愛知教育大学能楽部

内容：舞台写真や能面・記録映像等の資料と、学生による舞の実演により、能楽部の活動を紹介。

実演は4月17日(水) 12:30～13:00 仕舞「羽衣キリ」ほか

問い合わせ：附属図書館(カウンター) TEL 0566・26・2687

休館日の確認は附属図書館ホームページで確認してください。

<http://www.auelib.aichi-edu.ac.jp/>

◆愛知教育大学天文台 第81回一般公開

4月20日(土) 18:00～20:30

自然科学棟5階・地学538教室 入場無料、申し込み不要、雨天も観望会以外は実施
18:00～19:00 子どものための天文ミニ講座「星の名前七不思議・星座は誰がきめ

たのか」 講師：澤武文特別教授（理科教育）
19：00～20：30 観望会「月を見よう！」 天体：月ほか
19：00～ 「3D宇宙の旅」上映会 講師：澤研究室4年生
問い合わせは：理科教育講座 天文学研究室 Tel 0566・26・2624
愛知教育大学天文台ホームページ
<http://phyas.aichi-edu.ac.jp/~tenmon/>

編集後記

今年は桜の開花が早く、すでに満開。桜の花の下を希望を胸に歩く新入生、そんなナイスショットが撮れるのか、広報担当者としては気をもむところです。刈谷の地に大学が移転したのが1970年、それ以降に植樹した桜もすでに40年以上経って、見ごたえ十分。自然科学棟のしだれ桜、グラウンドやバス停坂（通称）、大学会館西側、美術実習棟東側、木造宿舎の周辺のソメイヨシノ…と、構内にも“名所”が数々あります。宴会こそできませんが、そんな名所をカメラを手に巡るのが、この時期の楽しみでもあります。



(K)

投稿のお願い

学内外の出来事（教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など）に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール：kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者：総務担当理事 折出 健二